

研修報告書No. 28

所 属：東京医学部附属病院研修医

研修先：本山町立国民健康保険嶺北中央病院
高知市土佐山へき地診療所

2015年3月の一ヶ月間、高知県本山町立国保嶺北病院を中心に地域医療の研修をさせて頂く機会に恵まれたため、下記にその体験を報告いたします。

・県外在住医師から見た高知の地域医療の現状

私が派遣された嶺北病院は高知県北部中央にある長岡郡本山町の町立病院であった。地図上で見ると四国全体のほぼ中央に位置することが良くわかる。四国と言うと海のイメージであったが全体としては山が多く、3月であるにも関わらず氷点下まで気温が下がったこともあった。東に接する大豊町、西に接する土佐郡土佐町・大川村を含めた4町村が医療圏であり、3次救急まで受け入れているということであった。

大学病院では高度に細分化された専門毎に疾患を治療していくという医療であったが、今回総合内科中心で患者を全人的に診察・加療していく医療を垣間見ることができた。医師が患者の家庭状況なども把握しており、医療としてだけでなく社会的・心理的にも患者に関わっていたことに驚いた。主観的な感覚ではあるが、患者・医師とも温厚な方々が多く、またその距離感がとても近く感じられた。その反面、一人の患者の治療が一人の医師依存になっており、今後IT化し情報を共有することが必要であるとも感じた。

・研修内容に対する意見

研修内容としては指導医と一緒に病棟の患者を受け持つ一般的な病棟管理や、診療所やその他の施設に同行し診察を行うなどであった。入院患者は肺炎や心不全などの common disease 中心で、時折集中治療が必要と考えられる患者が救急外来に来た際には転院搬送となっていた。実際に自分も一度転院搬送の際同乗する機会を得た。自分としては二年間の研修の総まとめとして common disease 中心に多種多科の患者を診ることができ非常に有意義であった。

・今回の臨床研修で得たと考えられるもの

今回の研修で一番の収穫は上述した通り、医療に限らず患者に多方面から接していく先生方の姿勢に接することができたことである。今後、自分が専門とする分野に関する医療的知識のみでなく、福祉・保健などの多角的な知識の習得が必要と感じられた。その他、

デイケアや訪問診療など普段は目にすることのない部分も見学させて頂く機会があったことも収穫であった。

今後地域で医療を行っていくことにも興味がある自分にとっては、ゆったりとした時の流れの中にいる温かな人たちに接することができ、地域での医療の良さを再確認することにもなった。